

# 議 事 録

9月講演会

平成29年9月9日

文責 岡崎 宏

10周年記念講演会を下記のとおり実施しましたのでご報告します。

## 記

出席者 14名	臼井、井本、小畑、鈴木、真貝、菅野、長浜、伴場、平島、溝口、宮原、田中、丹羽、岡崎、他参加者44名、合計48名 ＜順不同、敬称略＞	添付資料 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
日時	平成29年9月9日（土）16時00分～18時10分	
場所	世田谷ボランティアセンター 2階 共同会議室	
議 題	講演会	備考欄
講演会概要	<p><b>I. 開会挨拶：臼井代表</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域デビューの会の10周年記念講演会として、長谷川先生を招いて講演を伺う。</li></ul> <p><b>II. 講師の紹介（宮原氏）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・長谷川先生は高次脳機能障害の専門であり、三茶リハビリテーションクリニックの院長をされ、長年にわたりリハビリに携わってきた。リハビリというと辛いイメージがあるが、先生は多くの患者さんたちを改善し、笑顔にしてこられた。デビューの会では2009年に講演をしていただいたが、今回は最近の在宅医療・療法の現状と将来についてお話を伺うことになった。</li></ul> <p><b>III. 長谷川先生の講演「最近の在宅医療・療法の現状と将来」</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1960年代の障害のある人々のスローガン：私たち抜きで私たちのことを決めないで。</li><li>・世間では「障害のある人は支援の受け手」、「障害のない人は支え手」という捉え方をしているが、長年リハビリに携わっている立場から言うと、障害のある方にも支え手になってもらえると思う。障害に関する審議会では障害のある人が1/3参画するのが基準になっている。</li><li>・日本の人口推移をみていると、65歳以上の人口が35年間で3倍に増えている。1970年には「高齢化社会」と言っていたが、94年に「高齢社会」になった。この間24年かかったが、欧米ではもっとゆっくり進んでおり、他方アジアではもっと早く到来する。世界が日本の高齢対策を注視している。</li><li>・高齢者の医療・福祉：地域包括ケアシステムで在宅医療を行うようになり、介護制度と併せて対応している。例えば入院が必要になって病院では平均2週間入院した後、地域包括ケア病棟に移って60日ほど入院し、その後リハビリテーション病棟で150日ほど入院した後、自宅で在宅医療を受け、必要に応じて介護サービスを受けるといった具合である。</li><li>・高齢者の特徴：生活圏が狭くなって活動が低下し、結晶性知能（専門知識や趣味）は向上するが、流動性知識（暗記力や計算力）は低下する、骨折・難病・認知症等に罹りやすい。</li><li>・筋力低下：1日動かないと筋力は約3-5%低下する、通常歩行では筋力は増強しない、階段歩行や後向歩行は筋力がつく。</li><li>・パーキンソン病：周りの人は患者の能力低下を年のせいにしていないか？興味のあることが出来なくなったと思込んでいないか？実際は本人の興味のある活動を進めていくと、症状が改善する。</li><li>・高次脳機能障害：症状以外は普通である、障害は短期間では分かりにくい、日常生活の継続した時間の中で出現しやすい、本人も障害を認識できていないことが多い、半年-年単位（1～10年）で改善する。</li><li>・中途障害者の支援：本人も家族も初めてのことであるので、症状の理解・対応に時間がか</li></ul>	

	<p>かる、本人に楽しみや役割分担などを通じて自信をつけ、自己決定（内発的動機付け）ができるよう間を置く、始めの一步ができにくいので、年単位で支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立：医療福祉の分野では、トイレができるなど生活の一部ができることを「自立」というが、障害のある人の場合は、「自分で出来ることはするが、できないことは他人に依頼することにより、自分の生活スタイルを自分で決めて（援助を含めて）実践すること」と考える。従って障害があり全介助の状態でも自立できると考える。</li> <li>・世田谷区政策提言の会：区民、事業者、区の三者の協働の場。批判で終わるのでなく提言を、双方向の視点・関係を。高次脳機能障害ヘルパーを創設した。</li> <li>・まとめ：高齢者が努力することにより、能力の維持・向上が図れる、「障害者＝介助の受け手、周囲の人々＝支え手」の関係からの解放、障害者は弱者でなく、弱点がある人と考え、本人の主体性を尊重し、支援者から伴歩（走）者へ、一大危機を乗り越えた脳損傷者は社会的役割を果たすと輝きを放つ。</li> <li>・日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会：長谷川先生が立ち上げた。</li> </ul> <p><b>IV. 終わりの挨拶（臼井代表）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷川先生に感謝、多くの参加者に感謝</li> </ul>	
<p><b>今後の予定</b></p>	<p>次回は 10月21日（土）18時から太子堂区民センターにて。</p>	